

緑が丘

校訓
「ゆたかさ・たしかさ・たくましさ」
学校教育目標
「認め合い、学び合い、高め合う生徒の育成」

平戸市立田平中学校
学校だより第30号
(令和6年3月)
文責 西澤 庄藏



卒業証書授与式が挙行され、3年生4クラス60名が晴れて卒業しました。

3/14(木)第19回卒業証書授与式を執り行いました。卒業生60名が慣れ親しんだ学舎を巣立ちました。厳粛な中にも感動ある式典でした。

中学校の卒業証書授与式は義務教育の修了式でもあります。希望を胸に、それぞれの道を歩んでいく卒業生への餞(はなむけ)に、また、校長の最後の「授業」として、心を込めて式辞を述べました。

校長式辞から【要旨】

○「夢を持つこと」について

限界すれすれのこと挑戦してやり遂げた際に実感する「自分で自分をほめてあげたい」という気持ちは、何物にも代え難い人生の喜びだと思います。「夢や目標に向けて一日一日を一生懸命に生きる」ということは尊いことです。

(渋沢栄一氏の『夢七訓』から引用して説きました。)

○「共に生きること」について

「認め合い、学び合い、高め合い」は本校の教育目標に掲げる精神です。他人の個性を受け入れることから共に喜び合える関係になります。「共に生きる」という精神が、世界的に争いが続く今だからこそ、卒業する皆さんたちに考えてもらいたいのです。「身近な人や社会が幸せになっていく」そういった学びを続けていってほしいと思います。それが「共に生きる」にほかなりません。

何事にも感謝と思いやりの心で、力強く自らの人生を切り開いてほしいと締めくくりました。

教育委員会告示、来賓祝辞も壇上にて賜りました。いずれも温かい祝福と励ましの言葉で感慨深いものでした。ちなみに、教育委員会から松永教育長様、市長部局から岩永田平支所長様、本校PTAから島本会長様のお三方にご挨拶をいただきました。

送辞については、山野さん(2-1)が、数々の思い出とともに惜別と激励、そして、後を託された者としての決意を述べました。答辞については、島本さん(3-1)が仲間との忘れがたい出来事や様々な活動を通して学んだことを懐かしみ愛しむように述べました。そして、両親や先生たちをはじめ、周りの人々への感謝と、これからの生活に向かう決意で締めくくりました。送辞、答辞について2名の代表者を挙げましたが、生徒全員で綴る感動的なものとなりました。

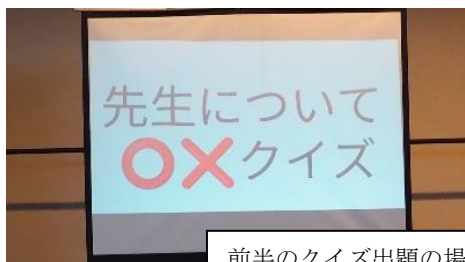
素晴らしい式典で、この思いを分かち合いたいと思い、この学校だよりへの記載となりました。

在校生の皆さん。いよいよ今まで頼りにしていた先輩は卒業します。皆さんが卒業生から受けた恩恵を、今度は後輩に与える立場になります。卒業生が引き継いでくれた輝かしい伝統を、受け継ぐ覚悟を持ってください。そして、本校の発展に向け努力することが、卒業生に対する唯一の恩返しです。期待しています。

バトンは確実に1・2年生に引き継がれました。さあ、今日から新たな田平中学校の歴史の1ページが刻まれます。



(卒業を前に実施した「3年生を送る会」の風景から)



前半のクイズ出題の場面から表現力に満ちたジェスチャーばかりでした。



後半のドッジボールの場面から3年生の意地を見た思いでした。

